

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：3/5～3/9

・ 3/5(月)

朝鮮半島の南北関係、中国の全国人民代表大会、森友学園問題、株価が最安値を更新、東京五輪の宿泊施設不足対策、シリアの内戦と子供たちの SOS、天皇皇后両陛下の最後の訪問予定などのトピックが報じられました。これら例示したトピックについては放送法第四条の観点から検討を行いました。森友学園問題に関しては放送法第四条の見地から問題のある箇所が見られました。また、森友学園問題については印象操作についての注記および検証者の所感を記しました。

・ 3/6(火)

南北朝鮮問題、森友学園問題、女子レスリングのパワハラ問題、新燃岳の爆発的噴火などが報じられました。南北朝鮮問題と森友学園問題については放送法第四条の見地から検討を行いましたが、森友学園問題については他の放送日との総合的な判断が必要であると考え今回の放送日での判断を留保しました。また、南北朝鮮問題については検証者の所感を記しました。

・ 3/7(水)

南北首脳会談、森友学園問題、セシウムボール、トランプ大統領の鉄鋼アルミニウム輸入制限、安倍首相と二階氏の対談などが報じられました。これらの報道については放送法第四条の見地から検討を行いましたが、森友学園問題についての放送は放送法第四条に抵触するおそれのあるものでした。また、セシウムボール、安倍首相と二階氏の対談については検証者の所感を記しました。

・ 3/8(木)

トランプ大統領の輸入制限、森友学園問題、除染廃棄物の中間貯蔵施設、南北朝鮮関係などについて報じられました。これら例示したトピックについては放送法第四条の見地から検討を行いました。森友学園問題についての報道は放送法第四条の見地から問題のあるものでした。また、トランプ大統領の輸入制限と森友学園問題については検証者の所感を記しました。

・ 3/9(金)

森友学園問題、北朝鮮問題、パラリンピック開幕などが報じられました。森友学園問題と北朝鮮問題については放送法第四条の見地から検討を行った結果、いずれのトピックも放送法に反するシーンは見られませんでした。また、森友学園問題については検証者の所感を記しました。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告月号 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年3月5日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙、高橋尚子		
検証テーマ：朝鮮半島問題、中国の動向、森友学園問題、株価、東京五輪、シリア内戦、皇室		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春の嵐、不安定な天気 ・朝鮮半島の南北関係 ・アカデミー賞で日本人初のメイクアップ&ヘアスタイル部門受賞 ・東京目黒区、5歳女児の虐待死 児童相談所で2回保護をされていたことが明らかに 児童相談所での勤務経験のある専門家が、保護基準が職員に委ねられているという問題点を指摘 ・中国の全国人民代表大会 ・森友学園問題 ・京都舞鶴、中2飛び降り転落事故、第三者委員会がいじめと認定 ・株価が最安値を更新、トランプ大統領発言の影響か ・東京五輪の宿泊施設不足対策 ・シリアの内戦、子供たちのSOS ・パラリンピック日本人選手団が平昌に到着 ・ベトナム、ホーチミン・チャリティーマラソンの寄付金が枯葉剤被害者の支援に 発起人は日本人ジャーナリストの中村梧郎 ・スポーツ報道 ・天気予報 ・両陛下の最後の訪問予定 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮半島問題：結論→特に問題なし 韓国側が北朝鮮に特使を派遣し金正恩党委員長との会談を行ったことについて報じられた。VTR中のナレーションで「最大の焦点はムン・ジェイン政権がアメリカと北朝鮮の仲介役として核問題解決の糸口をつかめるかどうかです。これまで北朝鮮はアメリカと対話をする用意があると表明する一方、核放棄を前提にした対話には応じない姿勢を崩してはけません。対するアメリカは北朝鮮が核放棄の意思を示すことが対話の前提だと主張、両国間には大きな隔たりがあります、今夜の晩餐会で韓国側はムン大統領の親書を手渡したと見られています。韓国の徳師団は明日帰国した後、今週中にもアメリカを訪問して結果を報告するほか、日本や中国にも説明するとしています。」との説明が加えられた後に、スタジオで星キャスターと雨宮キャスターが以下に朱記したやり取りを繰り広げた。 雨宮キャスター「二国間の動きがさらに加速している印象にあります。」 星キャスター「そうですね、最近日本外務省がキャッチした情報によるとですね、金正恩委員長はその韓国との 		

放送法遵守を求める視聴者の会

関係改善を早急に、急速に進めようと、大号令を出しているらしいんですね。」

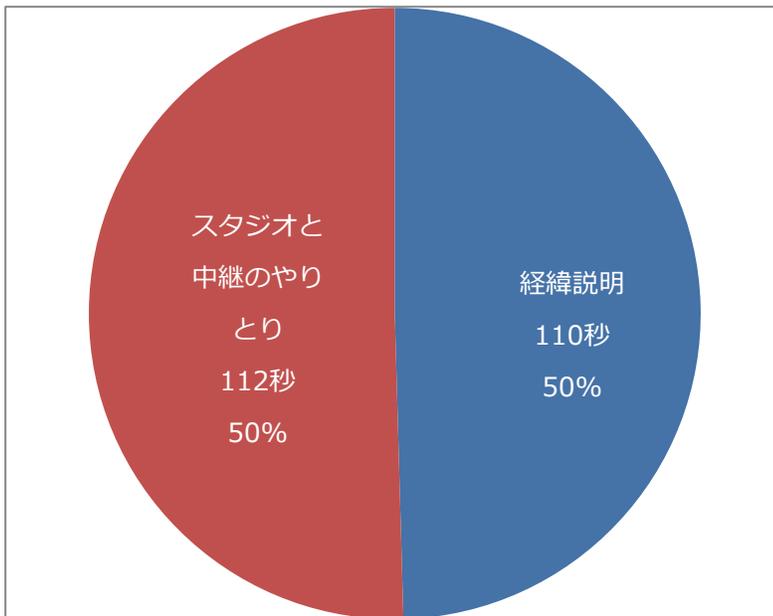
雨宮キャスター「その狙いは何でしょうか。」

星キャスター「ま、2つありましてね、一つは制裁がありますからその制裁に風穴を開ける、それから上手く行けば韓国から経済支援でも貰おうということですね、もう一つはこの南北関係をうまく転がしてアメリカとの交渉につなげたい、アメリカとの、なるべく核ミサイルの前提条件をつけないでアメリカの交渉に入りたいということですよ、ですから金正恩委員長が南の代表にどういうことをいうのか、によってその狙いがみえてくると思いますね。」

このトピックに当てられた時間は 178 秒で放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・中国の動向：結論→特に問題なし

中国の全国人民代表大会について報じられた。このトピックは経緯の説明とスタジオと中継でのやり取りの大きく 2 つのポイントがあった。このトピックに当てられた時間は 222 秒で、それぞれのポイントについての時間配分及び比率は以下の通りである。



経緯説明では、中国の全国人民代表大会において、政府活動報告では中国の経済成長がスピードより質を重視すべき段階になったとした上で今年の GDP の成長率の目標を去年同様 6.5%前後と設定したこと、習近平強軍思想に基づいた軍隊の強化をうたっていて今年の国防予算に 8.1%増額となる日本円で 18 兆円あまりを計上していること、国家主席・副主席の連続三選禁止を削除し任期についての制限を撤廃する憲法改正案が焦点となっていることが報じられた。また、全人代代表の「(憲法改正案は)100%通る、満場一致で」というコメントや、インタビューの「歴史の逆行との意見もあるが?」という質問に対して、全人代代表の一人が「それについてはコメントできない」と答えるシーンが取り上げられていた。

スタジオと中継のやり取りではスタジオの雨宮キャスターと中継・報告の井上記者の間で以下に朱記したやり取りが繰り返された。

雨宮塔子「今年の全人代は憲法改正がもっとも注目されていますが、今日の開幕式で見たことはありますか?」

井上波(報告)「はい、今日の全人代のひな壇に並んでいた顔ぶれを見ると習近平国家主席に近い人物が増えて権力固めが完成しつつあることを伺わせます。特に注目されたのは去年秋に最高指導部を退任した、王岐山氏が今の最高指導部に次ぐ位置に座っていたことです。政権一期目に汚職撲滅運動の名の下、習主席の政敵を次々と失脚させてきた王岐山氏は新たに国家副主席に就任し、大きな権力を握るとの観測が出ています。また習主席が絶大な信頼を置く経済ブレーンの劉鶴氏が副主席に起用され王岐山氏とともにこのところ貿易摩擦で緊張が高まるアメリカとの交渉を担うのではないかとされています。」

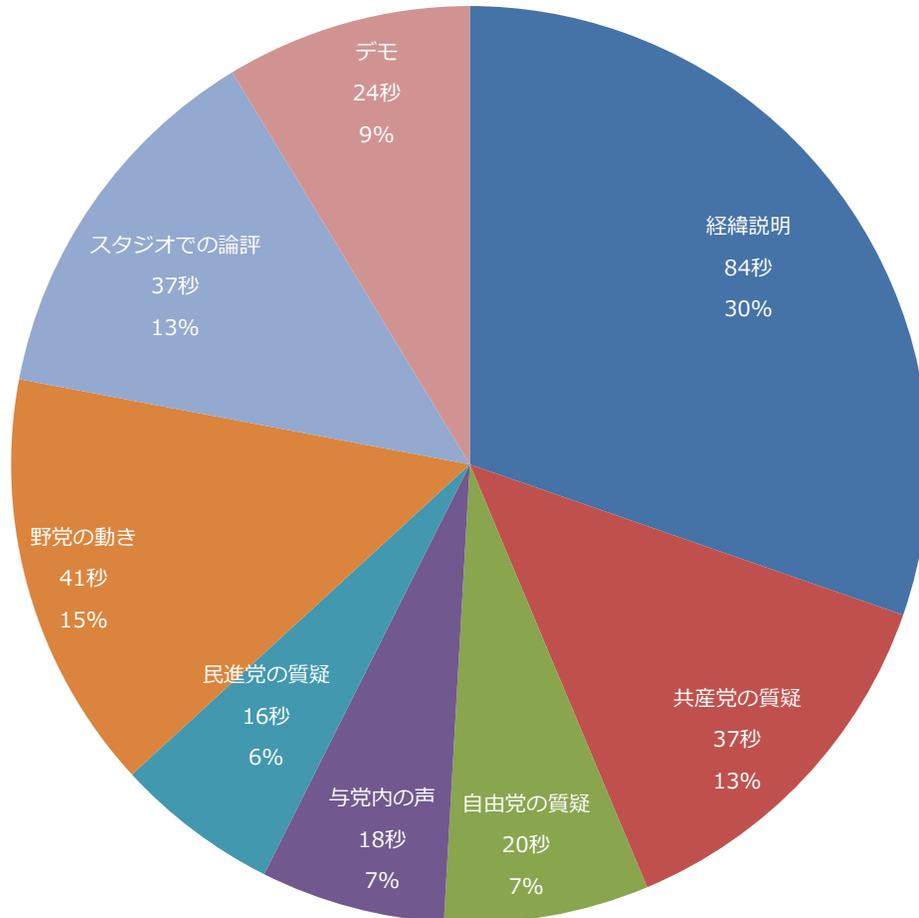
雨宮塔子「はい、権力の集中が危惧されていますが習近平国家主席は何を目指しているのでしょうか。」

井上波「はい、習近平国家主席はよく、中国の国を強くする、中華人民の偉大なる復興を実現するという夢を口にします。経済のさらなる発展や軍備の増強など全てはその実現のためですが、後五年の任期では時間が足りません、今回の憲法改正で時間的な制約が取れ絶大な権力を持って夢の実現に邁進することになります、そんな習近平の中国とどう向き合っていくのか、日本を始め国際社会に取っては難しい課題となりそうです。」

今回は放送法の観点からは特に問題は見られなかった。

・森友学園問題：結論→問題あり

森友問題を巡って財務省の文書に書き換えられた疑いが出ている問題について報じられた。このトピックについて当てられた時間は秒で、経緯説明、共産党の質疑、自由党の質疑、自民党の声、民進党の質疑、野党の動き、スタジオでの論評、デモの様子が大きなポイントとして挙げられていた。それぞれのポイントについての時間倍分は以下の通りである。



経緯説明では、去年に国会議員に開示された財務省の決裁文書から「特例的な内容となる」、「価格提示を行う」、などの文言が消えており書き換えられた疑いがあると朝日新聞が先週報じたこと、それをうけて国会が紛糾したことや自民党からも反対の声が上がっていることが説明された。

共産党の質疑では辰巳孝太郎参議院議員の「改ざんされる前の文書があるのかないのか、これをはっきり答えていただきたい。」という質問に対し、財務省の太田充理財局長が「お答えをすることが捜査にどのような影響を与えるか予見し難いということのため、答弁は差し控えさせていただきます。」と答弁し、これに対して辰巳孝太郎参議院議員が「全く金曜日と変わってないじゃないですか。」と発言するシーンや、辰巳孝太郎参議院議員の「週末どないしてたんですか、これ電話一本かければ済む話ですよ、文書があったのかなかったのか、近財の職員はどう言っているんですか。」という質問に対し、太田充理財局長の「あの、電話一本かければ済むという話ではないというふうに認識をさせていただきます。」と答弁するシーンが取り上げられた。

自由党の質疑では山本太郎参議院議員の「財務省では決裁文書、決済後の修正は日常的に行われているということでもいいんですね。」という質問に対し太田理財局長が「そのようなことは基本的にはないというふうに思っております。」と答えるシーンや、山本太郎参議院議員の「この文書が実際にあったとするならばこれ、内閣総辞職という認識でよろしいですか？」という質問に対し、安倍総理が「全く仮定の話でございますので、お答えすることはできません。」と答えるシーンが取り上げられた。

与党内の声では「これは政局になるぞ、財務省だけの問題で収まるわけがない、政権に与える影響は計り知れ

ないよ」という与党幹部の声が紹介されていた。

民進党の質疑では、決裁文書の責任の所在を巡って足立信也参院議員が「国有地売却の決算書の責任者は誰なんですか」と質問し、それに太田理財局長が「近畿財務局の管財部の次長でございます。」と答えるシーンが取り上げられていた。

野党の動きでは、希望の党の今井雅人議員を中心とした野党議員が近畿財務局に訪問し、原本を見せるよう迫ったことが報じられるとともに、今井雅人議員の「原本は近畿財務局にあるということだったので、ちょっとそれを見させていただきたいと思ひまして、きました。」「原本は、あの、本省にも近財にもないと、で、捜査当局にあると、いうことでまあびっくりするような発言が生まれて。」というコメントが取り上げられていた。

デモの様子については佐川国税庁長官の証人喚問などを求める人達による総理官邸前での抗議活動についてが取り上げられていた。

朝日新聞の報道を受けて波紋が広がっているとのことであるが、肝心の朝日新聞が報じたとされる疑惑を裏付ける証拠は報道の中では明示されていなかった。財務省に対して懐疑的な一方で、朝日新聞の報道は裏付ける証拠の紹介もなしに鵜呑みにした報道構成は放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」に反する恐れがある。

・株価：結論→特に問題なし

今日の東京株式市場で日経平均株価は先週末の終値よりも 139 円安い 21042 円で取引を終わったこと、これは今年の最安値を更新し去年の 10 月以来およそ五ヶ月ぶりの安値水準となっていることが報じられた。また、アメリカのトランプ大統領が表明した鉄鋼製品などの関税引き上げ方針をめぐる、貿易戦争に発展すれば世界経済にマイナスになるとの見方から市場ではリスクを回避する動きが広がっているとのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 32 秒で、放送法 第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

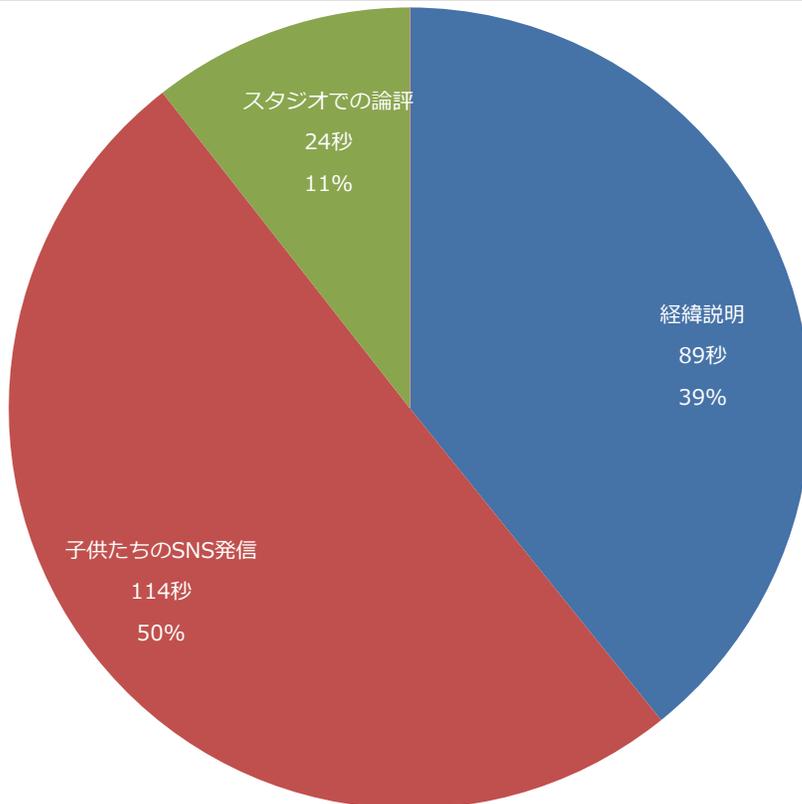
・東京五輪：結論→特に問題なし

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックで宿泊施設が足りないことに対応するため、クルーズ船をホテルとして活用する政府の検討会議が開かれたこと、会議では東京湾内の五ヶ所の埠頭をクルーズ船の停泊地の候補に上げられたこと、大規模なイベントの際には本来は旅館業法で認められない窓のない客室にも許可を与えるなど必要なガイドラインを来年度中に取りまとめる方針であることが報じられた。

このトピックについて当てられた時間は 32 秒で、放送法 第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・シリア内戦：結論→特に問題なし

シリア内戦とそれを SNS で伝える子供たちについて報じられた。このトピックについて当てられた時間は 227 秒で、シリア内戦についての経緯説明、SNS で内戦の様子を伝える子供たち、スタジオでの論評の 3 つのポイントに大きく分けられ、これらのポイントについての時間配分及び比率は以下の通りであった。



スタジオでは、雨宮キャスターの「シリアでは内戦がもう七年も続いているのに先が見えないんですね。」というコメントに対して星キャスターが「そうですね、今シリアではもう和平の動きが止まってしまっていてね、各勢力の勢力争いが続いているんですよ、まああのジャーナリストも入れないような非常に厳しい状況の中で子供たちが SNS で発信しているわけですからね、この叫びを世界中の指導者が耳を傾けてもらいたいと思いますね。」と答えていた。

このトピックについて放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・皇室：結論→特に問題なし

天皇皇后両陛下が今月二十七日から二泊三日の日程で沖縄県を訪問されることが正式に決まったこと、沖縄本島の国立沖縄戦没者墓苑のほか与那国島に初めて足を運ばれ島の伝統芸能などをご覧になること、両陛下は先の大戦で大きな犠牲を払った沖縄県に皇太子ご夫妻時代から心を寄せ続けていて 11 回目となる今回が天皇皇后としての最後の訪問となる見通しであることが報じられた。

またスタジオでは星キャスターが「宮内庁の関係者によりますと天皇陛下、その戦没者の慰霊っていうのを非常に重視してしまっていてね、象徴天皇の非常に大きな勤めだと捉えているそうなんです、とりわけ沖縄への思いは強いようなので今回もそれが実現したようですね。」とコメントしていた。このトピックについて当てられた時間は 53 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・森友学園問題

今回の報道で、問題とされている文書は近畿財務局の管財部次長の決裁であること、文書の原本は捜査当局にあるという2つの重要な点が明らかになった、これが今後の疑惑追及の動きあるいは今後の森友学園報道でどう扱われるのかは注目に値するだろう。今後の報道で、これらの重要な点を軽視あるいは無視した報道が行われるとしたら、真相解明に置いて重要な点を報じないことで、森友学園問題について視聴者の疑念をいたずらに助長してしまうというおそれが生じてくるだろう。

検証者所感

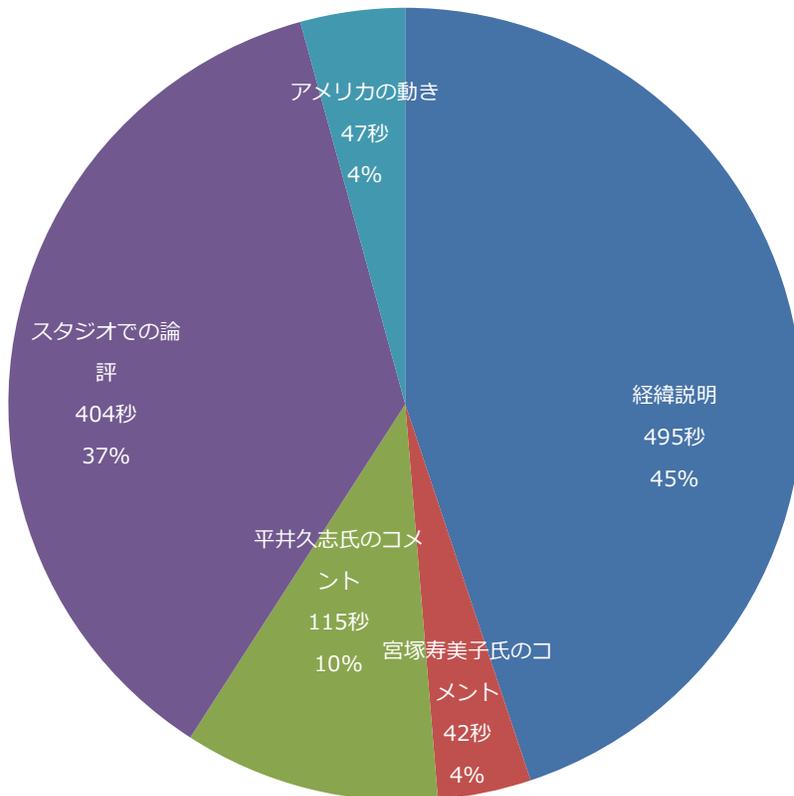
・森友学園問題

「これは政局になるぞ、財務省だけの問題で収まるわけがない、政権に与える影響は計り知れないよ」という与党幹部のコメントから政局にしようとする意思を感じ取ったのは私だけだろうか。また、決裁文書の責任の所在を巡って足立信也参院議員の「国有地売却の決算書の責任者は誰なんですか」という質問に対して太田理財局長が「近畿財務局の管財部の次長でございます。」と答えるシーンは非常に重要なシーンだと思うが、報道の中で近畿財務局管財部の次長や近畿財務局の組織構成について取り上げられることはなかった。問題となった文書について希望の党の今井雅人議員が「原本は、あの、本省にも近財にもないと、で、捜査当局にあると、いうことでまあびっくりするような発言が出まして。」とコメントしていたが、本件は既に籠池氏が被告となり捜査が行われている事件であることを考えると、原本は捜査当局に提出されている、というのは十分に考えられる話であり、そこまでびっくりするほどのことでもないように感じた。そして、原本が捜査当局に提出されているのであれば、もはや本省や近畿財務局を相手に原本を出せと言ったところで無駄であり、捜査当局に対して開示を請求していく必要があるのではないだろうか。

報道の作りそのものがどうしても疑わしい財務省ありきで作られているような印象を受けた。今後も注視すべきテーマであると思う。

NEWS23 週刊報告月号 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年3月6日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙 平井久志(北朝鮮問題に詳しいジャーナリスト)		
検証テーマ：南北問題、森友学園		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・ 南北朝鮮問題 ・ 森友学園 ・ 【追跡】 強制不妊手術 ・ 女子レスリング、パワハラ問題、レスリング協会が第三者に調査委託 ※VTRの中で自民党の馳浩参議院議員の日本レスリング協会副会長としてのコメントが紹介された。 ・ 新燃岳、爆発的噴火 ・ スポーツ報道 ・ 天気予報 ・ 【速報】 南北朝鮮関係にトランプ大統領が Twitter で言及 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・ 南北朝鮮問題：結論→特に問題なし 北朝鮮と韓国がこの両首脳が来月末に会談することで南北が合意したことについて報じられた。このトピックについて当てられた時間は1103秒だった。またこのトピックについては、北朝鮮と韓国の関係についての経緯説明、国学院大学栃木短期大学兼任講師で北朝鮮問題に詳しいと紹介されていた宮塚寿美子氏のVTR中でのコメント、北朝鮮問題に詳しいジャーナリストの平井久志氏のVTR中でのコメント、平井久志氏を交えてのスタジオでの論評および中継とのやり取り、アメリカの動きの5つのポイントがあり、それぞれのポイントの時間配分及び比率は以下の通りであった。		



経緯説明では北朝鮮と韓国がこの両首脳が来月末に会談することで南北が合意したことや、北朝鮮が体制の安全が保障されるなら核を保有する理由がないとも表明しアメリカとの対話に向けても大きく踏み込んだ姿勢を示したことが報じられた。また、金正恩氏が北朝鮮の特使を歓待し会談する様子や、平昌オリンピックでの南北融和の様子の振り返り、北朝鮮が平昌オリンピックで派遣した金与正氏やキム・ヨン Chol氏についての説明なども取り上げられていた。加えて、南北国境での韓国側からの拡声器での放送でもムン政権になってからは北朝鮮の体制批判が行われなくなっていたことも報じられた。

VTR 中の宮塚寿美子氏のコメントでは、晩餐会で用意されていたお酒についての「ああいった商店とかでも売っていないような酒が並んでいたの、高い。高いっていうか献上されるようなお酒が特別に出されているのかな。」というコメントや、会場として使用されていたコバンサン招待所についての「招待所っていうのは、あの、北朝鮮ではロイヤルファミリーの別荘、今後、ムン・ジェイン大統領が訪朝した際もそこ、同じ場所を使わせるとなるとやっぱりあの、一度やっぱり予行練習としては使わせているのかなと思いました。」というコメントが紹介されていた。

VTR 中の平井久志氏のコメントでは、北朝鮮の急激な軟化の背景についての「国連による経済制裁というものが長く続けば北朝鮮の経済にやっぱり深刻な影響を与えるということを考えての彼らなりの決断だと思いますね、朝鮮半島の非核化はお父さんの金正日総書記やお爺さんの金日成主席の遺訓であると、だから究極的な目標としては我々はそのこに行き着くことは可能だということ語ったということは非常に意味のあることだと思いますね。」というコメントや、三度目となる今回予定されている会談のこれまでのとの違いについての「一回目、二回目が南北間、南北問題のための首脳会談であるとするれば、第三回目というのは核ミサイル問題も含む地域問題、世界的な問題、その問題をお互いがどういう風に解決の糸口を見つけていくのか、そういうものを模索する会談

になるわけですからそういう意味では一回目二回目と大きな違いがあると思います。より周辺国家や世界の平和安定にとって重要な意味を持つてくる会談になると思いますね。」というコメントが紹介されていた。

スタジオでの論評では、ソウルからの報告を行う井田重利記者や日本からの報告を行う遊佐勝美記者と中継をつないでのスタジオとのやり取りや、スタジオにゲストとしてVTRでもでていた平井久志氏を招いての論評が行われた。中継とのやりとりスタジオでの論評では以下に朱記したやり取りが繰り返されていた。

雨宮塔子「さて、北朝鮮の態度の変化に韓国、そして日本政府からはどんな反応が出ているんでしょうか、まずはソウルの井田さんにお伝えします。」

井田重利(ソウルから報告)「はい、特使団を引ききたチョンウィヨン国家安保室長は米朝対話を始める十分な条件が整った、と訪朝の成果に胸を張りました。南北首脳会談については関係の改善のために想起の開催が望ましいという考えで一致して一気に4月末の開催が決まったということです。また、韓国側は4月に再開する方針の米韓合同軍事演習に北朝鮮が噛み付いてくるのではないかと懸念を持っていましたが金正恩党委員長は理解を示した、ということです。北朝鮮は去年まで韓国の対話提案を無視し続けてきたわけですから、ここまでの方針の大転換に韓国では驚きが広がっています、ムン・ジェイン大統領は合意を踏くことがなく履行するよう努力してほしい、と関係部署に指示し韓国政府はアメリカ、中国、ロシア、そして日本に説明をして協力を求めることにしています。今後は南北首脳会談、そして各放棄をめぐる米朝対話の行方が焦点になります。核に固執してきた金正恩政権が本当に核を放棄するのかどうか、アメリカそして国際社会は北朝鮮の動向を見極めながら対応をしていくことになりそうです。」

雨宮塔子「続いて日本政府の反応です、遊佐さん。」

遊佐勝美(日本からの報告)「はい、小野寺防衛大臣は今夜、北朝鮮が核ミサイル開発をやめるのかどうか、見極めが必要だとの考えを強調しています。」

小野寺防衛大臣(記者会見の映像)「今回の南北の対話というのが本当に北朝鮮の核、あるいはミサイルの開発の放棄につながるものなのかどうか、というのは慎重に見定める必要があると思っています。」

遊佐勝美「また、政府関係者は首脳会談をやるにはプロセスがあるのにこんなに早く決まるとは、と述べています。南北間の首脳会談が急遽決まったことに対して、その展開の速さに戸惑いを見せています、一方で別の政府関係者はこれまで何度も騙されてきたのだから、最大限の圧力をかけ続けたいといけなく、というふうに指摘していました、日本政府としてはこれまでの方針を維持しながら、南北間の交渉の行方を注視していく方針と見られます。」

雨宮塔子「ここからは北朝鮮問題に詳しいジャーナリストの平井久志さんに加わっていただきます。よろしくお願ひします。」

平井久志「よろしくお願ひします。」

駒田健吾「まず星さんにお聞きしますけれどもなぜこのタイミングで南北首脳会談なんでしょうか。」

星浩「まあ、オリンピックの成功でその韓国に対して北朝鮮は恩を売ったという形になりますよね、それから制裁、実際には相当効いていると思うんですけれども、その制裁の効果があんまり表面化しない段階ですのでそういう意味で言うと北朝鮮からすると、非常に最後のタイミングっていいですかね、非常に絶妙なタイミングでカードを切ったという面はあると思いますね。」

駒田健吾「今回どれもですね、驚くべき内容の両国の合意内容が韓国の大統領府から発表されたんですが、まず

こちらをご覧ください。対話が続く間は核実験、弾道ミサイル発射を凍結、という合意内容があるんですが、平井さん、この意味は何でしょうか。」

平井久志「まあこの内容じしんはですね、核実験、ミサイル発射し続けていて南北の対話も米朝の対話もありませんから、まあ最低限この位は出るんじゃないかと思ひましてね、本当に問題なのは核開発の凍結じゃないかなと思うんですけども、それはまあ今後の課題として残ったということですね・」

駒田健吾「そして次にですね、こちらです。北朝鮮の分かりますでしょうか、北朝鮮の体制の安全が保障されるなら核保有する理由がない、これも驚いたんですがこれはどうでしょうか。」

平井久志「そうですね、あの、金正恩政権と言うのは核問題は一切交渉しないんだということを書いてきたのでこれは大きな前進だとは思ひますね、ただしですね朝鮮半島の非核化という言葉を使っているんですけども、これはまああのお父さんやお爺さん、金正日総書記や日成主席がおっしゃっていたことなんですね、ですから新しい言葉ではなくて自分は核問題をカードとしないって書いていたのをお父さんの時代の核問題をややカードとして使う姿勢を見せたんだろうと思ひますね、ただ、これも体制が保障されれば核放棄する可能性、ある意味では出口の問題なんですね、アメリカは出口ではなくて入口で核を放棄しろと言っているんでこの問題はまあ少し、出口入り口論で米朝間のまだ、意見の違いが埋まっていないという感じがしますね。」

星浩「まあ今回これ、一つ大きなターニングポイントだと思いますね。そのままその南北の融和だとか核保有の放棄につながるのかどうか、それとも今まで何回もこういうことで騙されてきたわけですから国際社会、それと同じような道を歩むのか、ただ今回やっぱり南北のある程度の信頼関係が構築されつつある中での動きですので今までとは違うという見方も可能ですよね。」

駒田健吾「そしてこちらをご覧ください、米韓軍事演習と書いてありますが、この前にですね、実は例年と同規模という言葉があつて、例年と同規模の米韓軍事演習を理解する、とまで言っているんですが平井さんこれは、」

平井久志「これは驚きですね、今までまあことあるごとに反発してきた北朝鮮ですけどもそれに対して理解を示して、金正恩さんとしてはもっと大きな利益のために、自分のまあ器の大きさみたいなものを内外に見せつけようとしたんじゃないのかなという感じがしますね。」

駒田健吾「北朝鮮の本気度ということ考えると平井さんどうですか。」

平井久志「本気度あると思ひますね、真剣だと思ひますけれども、ただ問題はですね、南北の例えば首脳会談というのは来月の末に板門店でやると非常に具体的なんですね、でもその核問題への合意点というのはある意味では抽象的ですし出口論、こうこうこういうことができれば我々は各放棄する可能性があるという出口論なんですね、片方は非常に具体的で片方は非常に抽象的であり将来のことなんで、今後はおそらく、このまあ来月の末まで二ヶ月ありませんけどその間にこのギャップをどれだけ埋めることができるのか、もしくはそれを埋めることができてもですね、北朝鮮の核問題ここですつと解決するわけじゃなくて、長い長い長丁場のおそらく始まり人あるんじゃないかなという感じがしますね。」

星浩「長い困難な交渉が始まったということですね。」

雨宮塔子「平井さんありがとうございました。」

アメリカの動向については番組の最終盤での速報の形で、アメリカのトランプ大統領が韓国と北朝鮮が首脳会談の開催などで合意した事を受けて「北朝鮮との対話で進展があるようだ、何年もの間で初めてすべての関係各国が本気で取り組んでいる、世界が注目し見守っている、期待は裏切られるかもしれないが、アメリカはどちら

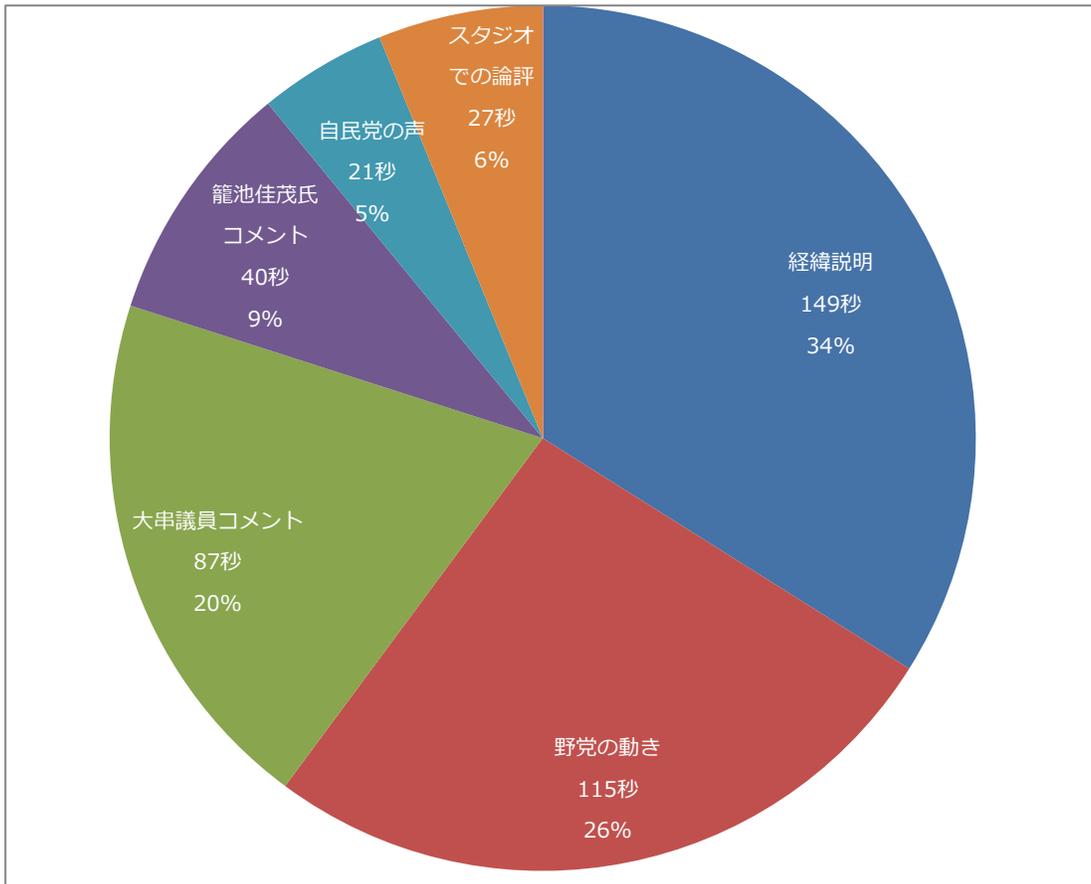
の以降が突き進む準備がある」とツイートし、北朝鮮との対話が進むことに期待を示したことが報じられた。

このトピックについては放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・森友学園：結論→他の放送日との総合的判断を要する

森友学園問題について、朝日新聞が報じた「決裁文書からはその特例という文言などが問題発覚後に消えていた」という疑惑について、財務省が今日捜査状況を報告したことが中心に報じられた。

このトピックについて当てられた時間は439秒で、このトピックは森友学園問題や朝日新聞の報じた疑惑といった経緯、野党の動き、元財務官僚である希望の党の大串博志議員による財務省の報告に対するコメント、籠池被告の長男である佳茂氏のコメント、自民党議員の声、スタジオでの論評といったポイントに大きく分けられ、これらのポイントについての時間配分及び比率は以下の通りであった。



経緯説明では文書に書き換えがあったかについての「調査にあたっては多くの文書の確認が必要となるがこれら文書は捜査の対象となっており、すべての文書を直ちに確認できない状況となっている。」という財務省の回答と、これに先立って行われた麻生財務大臣の記者会見の様子が報じられた。なお、麻生財務大臣の記者会見では以下に朱記したやり取りが繰り返されていた。

麻生財務大臣「全省を挙げて文書の確認、職員への聞き取りなどの調査を進めていきたいと考えておりますので、調査については事務方にあたってください。」

記者「書き換えるの有無だけでもですね、早く伝えたいほう。」

麻生財務大臣「いま、答えたと思いますが。」

記者「有無については答えてなかったと思いますが。」

麻生財務大臣「何について？」

記者「書換の有無について。」

麻生財務大臣「だからいまそれについて答えられるのは、あなたに先に予算委員会より先に喋れということですか？」

野党の動きでは財務省や麻生財務大臣の回答に対する立憲民主党の辻元清美対委員長の「いや、何いうてんねん、と思いましたがよ、なめとるんかと思いましたが。」というコメントが紹介されたほか、野党の合同ヒアリングでは後述の大串議員の指摘した黒い点について。以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

財務省担当者「チェックの話でございましたけど、現時点でその点まで我々の方でお答えを用意できている状況でございませんけれども。」

ナレーション「問題の決裁文書を巡っては昨日さらにもう一つ不可解なことが明らかになっていました。森友学園と交渉を行っていた財務省の近畿財務局に直談判に訪れた野党議員、文書の原本は大阪地検にあり見せられないとの説明を受けましたが、その際に原本のコピーだとしてこんな文書を示されたのです。

森裕子(自由党参議院議員)「昨日見たもののコピーなのですが、こういうふうにな、チェックがはいっていました。これ。近畿財務局のカラーコピーではこういうふうになチェックがはいっていました。」

ナレーション「去年、国会議員に開示された文書ではチェックがはいっていなかったページ、しかし、近畿財務局が示した原本のコピーにはチェックがはいっていたのです。」

辰巳孝太郎(共産党参議院議員)「近財に、我々と違う調書が、データとして残っている、残っているということは認めますね？」

財務省担当者「開示請求等の関係で色んなバージョンが存在してしまったか可能性はあると思うんですが、我々としては元々、元々、(野党議員「バージョン?」)、すみませんちょっと言葉遣い撤回させていただきます。」

大串議員のコメントでは、大串議員の財務省報告に対するコメントがナレーションによる補足説明が加えられるかたちで以下に朱記したように取り上げられていた。

ナレーション「決裁文書を書き換えるようなことは実際、あるのでしょうか、元財務官僚の希望の党、大串博志議員は。」

大串博志(元財務官僚、希望の党衆議院議員)「決済の判子を押した後、変わるというのはありえない、もし文書が変わったらこれらの方々の印をもう一回もらうというのが、あの公文書の作り方です。」

ナレーション「近畿財務局の決裁文書であれば局内で保管されるのが通例だといいます、その上で財務省の人間であれば書き換えようと思えばできてしまう、と話します。大串氏が注目するのは決裁文書に記されている黒い点。」

大串博志「間違いがないか、を、確認して、その都度、こうやって押してっているんです。郵便番号、住所

ナレーション「表紙は、すべての項目に黒い点が記されています。一方、書き換えがあったと指摘されている事案の概要を記した調書には黒い点は一つも打たれていません。」

大串博志「文書もまるつけるんですよチェックする時、本当にチェックする時、だからこういう調書の文書も本来であれば丸つけていてもおかしくないですよ。」

籠池佳茂氏については、籠池泰典被告と妻の諄子被告は今も拘留されていること、長男の佳茂氏が騒動後見習いの木こりとなったことがナレーションで説明された後に、「事実だとすればですね、それこそ重要なその、詐欺なんじゃないかなと思いますよね。ようやくこういったものがでてきたのかと思っておるのが率直なところなんですよ、去年のその答弁のときもそういう話が出てきていけばですね、その父の置かれたその状況なんてものもかなり変わったと思いますよ。」という佳茂氏のコメントが紹介されていた。

自民党の声では二階幹事長の記者会見での以下に手記したやり取りが取り上げられていた。

ナレーション「財務省の対応に自民党内からも批判が噴出しています。」

二階俊博(自民党幹事長「出せないということは我々もちょっと理解できませんね。」

記者「幹事長としてはそういう点明らかにするべきだというお考えでよろしいでしょうか？」

二階俊博「そうしないと国会の審議が進まないじゃないですか。」

スタジオでの論評では以下朱記したやり取りが繰り返されていた。

駒田健吾「星さん、財務省はゼロ回答でしたね。」

星浩「そうですね、今後のポイントは2つあると思いますね。一つはその文書ですね、財務省が出し渋っている
と与党の中にも批判がありますからね、国政調査権で出せということになる可能性もありますね、もう一つは麻生財務大臣の責任問題ですね、まあ野党は麻生さんに絞って追及していますので、この辺がどうなるのか、最終的には安倍総理の決断次第ということになると思いますね。」

今回注目する点は「財務省内部や財務官僚」についての元財務官僚としての見解で希望の党の大串博志議員のコメントが取り上げられていたことであると考え。元官僚の国会議員の中でも元財務官僚あるいは元大蔵官僚というのは多く、与党にも野党にも元大蔵官僚の国会議員はいるのだから、与党の元財務官僚に対しても大串議員のコメントについて聞いてみればよいと思うが、今回の報道ではそれをしなかった。今回は枠の問題で大串議員を取り上げたのかもしれないが、元財務官僚という点に着目して見解を紹介するのであれば、野党のみならず与党の元財務官僚の見解についても紹介するべきであろう。今回のような報道が続くのであれば放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」に抵触してくる可能性もでてくると考えられる。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

検証者所感

・ 南北朝鮮問題

今回は主に南北朝鮮の事情についての報道であったが、日本にとっての対北朝鮮問題を考える際には拉致問題は切っても切れない課題であると思う。今後、日本はどうかということや日本政府の対応にも焦点があたった際には拉致問題はどうか扱われるのかということは注視したい。

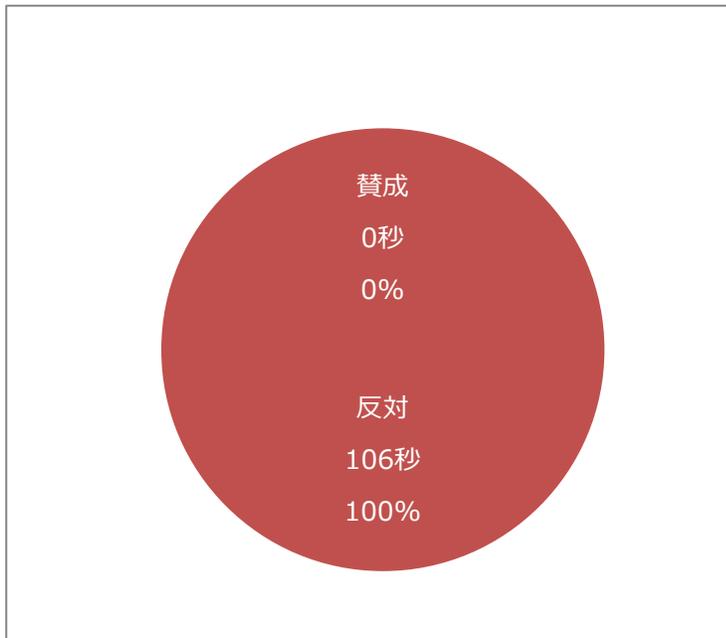
NEWS23 週刊報告月号 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年3月7日									
出演者：星浩、雨宮塔子、皆川玲菜、駒田健吾、宇内梨沙											
検証テーマ：南北首脳会談電撃合意の舞台裏、森友文書、セシウムボール、 鉄鋼アルミニウム輸入制限対象に日本も、安倍首相が二階氏と会談											
報道トピック一覧											
<ul style="list-style-type: none"> ・南北首脳会談、電撃合意の舞台裏 ・森友文書 ・セシウムボール ・ALSの先生、生徒と卒業式を ・北島三郎、次男死去 ・トランプ大統領、鉄鋼アルミニウム輸入制限対象に日本も ・仮想通貨流出、他業者への行政処分も検討 ・レスリング、パワハラ問題 ・スポーツ情報 ・天気予報 ・安倍首相が二階氏と対談 											
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨											
<p>・南北首脳会談、電撃合意の舞台裏→結論：特に問題は見られず。</p> <p>南北首脳会談の開催が電撃的に決まったことについて、その舞台裏や各国の反応について報道された。このトピックについて充てられた時間は523秒であった。会談に肯定的な意見を賛成、否定的な意見を反対として集計したところ、賛否の時間配分、及び比率は以下の通りだった。</p>											
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>意見</th> <th>時間 (秒)</th> <th>比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>賛成</td> <td>29</td> <td>83%</td> </tr> <tr> <td>反対</td> <td>6</td> <td>17%</td> </tr> </tbody> </table>			意見	時間 (秒)	比率 (%)	賛成	29	83%	反対	6	17%
意見	時間 (秒)	比率 (%)									
賛成	29	83%									
反対	6	17%									
<p>大きく賛成側に偏ってはいるものの、トピックの報道時間の多くは現状の北朝鮮情勢の解説が主で、賛否が分かれる意見が少なかったことを考慮すると許容できる範囲内であったと考える。また「2005年北朝鮮は6ヶ国協定で「格の放棄」を約束。2008年には非核化の一環として原子炉の冷却塔を爆破したもののその後再稼働を宣言。2012年にも米朝間で核実験の凍結で合意していますが水面下で開発を続け今日に至っているのです。」などと、</p>											

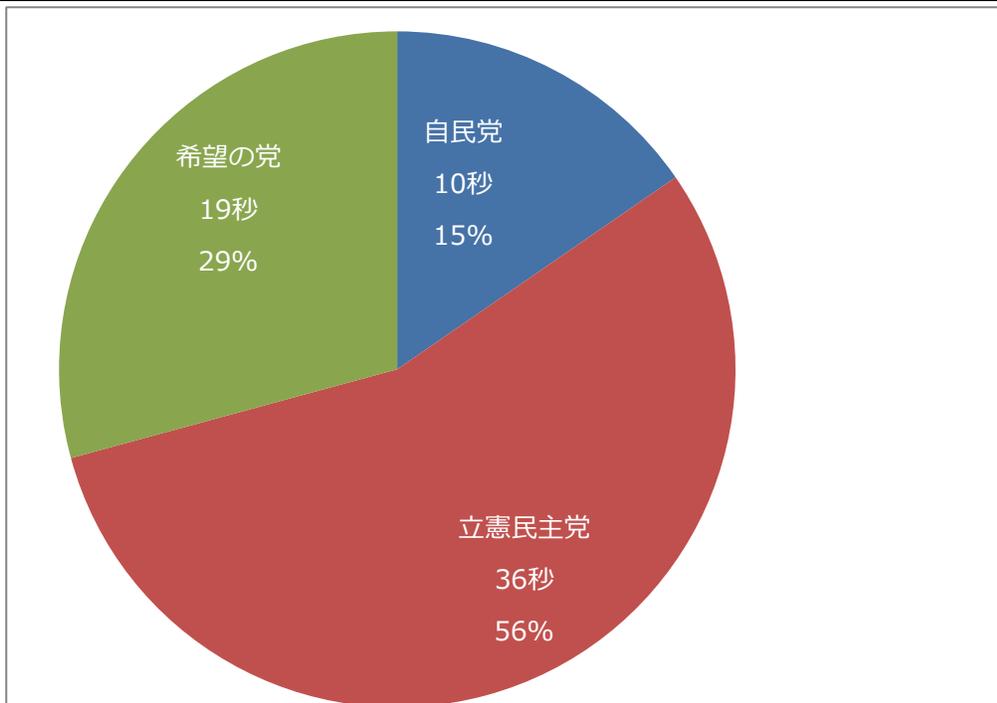
北朝鮮が合意を無視してきた歴史も併せて紹介されておりバランスが取れていた。以上のことを勘案すると放送法上大きな問題は無いものとする。

・森友文書→結論：放送法第四条第一項第二号に照らし合わせると不十分

森友学園を巡る財務省の決裁文書が書き換えられた疑いがある問題について詳細な説明を避けていた財務省が一転して文書のコピーを提出することになったことについて報じられた。その背景として野党からだけでなく与党からの批判もあったことも注目されて報道されていた。このトピックについて充てられた時間は381秒であった。森友文書問題について政府に肯定的な意見を賛成、否定的な意見を賛成として集計したところ、賛否の時間配分比率は以下の通りであった。



反対意見としては元弁護士の落合洋司氏が「今報じられてる問題、状況事件の中身で国会にコピーが渡ると、(操作に)支障が出るとは極めて考えにくい。その可能性はほとんどゼロじゃないか。」などの発言があった。ほかにも野党議員が財務省職員に対して詰問しているシーンなど大きく反対に偏っており、賛成意見は皆無であった。また、その中で報じられた意見について党別に集計したのが以下のグラフである。



大きく野党の割合が高くなっており、特に立憲民主党の割合が高くなっていった。立憲民主党議員の意見としては蓮舫議員の「自民・公明の責任ある与党の対応として評価します。当然私たちも納得できない、与党も納得できないという認識は一致した。」と自民党と公明党の幹部が対談し財務省による文書の調査や、関係者の聞き取りの結果を明日までに国会に報告する方針で一致したことについて評価する発言や、福山哲郎幹事長の「まさか私たちがすでにここに持っている元々国会に提出された決裁文書を持って、明日の理事会で提出するようなことはよもやないと考えている。国民が求めているのはこれとは別の文書の存否を明らかにすること。」と財務省をけん制する発言が取り上げられていた。

対して自民党議員の意見としては森山裕国対委員長が発言が紹介されていたものの「一両日中にしっかりと対応をやっていただきたい。審議が進むように役所としても対応して頂きたい。」と、紹介されていたのは野党議員と同じく否定的な発言のみであった。報道全体として森友問題について政府に否定的な構成であり、ナレーションでの「森友問題を巡る包囲網は狭まっています。」との発言など一方的な内容であった。以上のことをふまえると放送法第四条第一項第二号の「政治的に公平であること」に抵触する恐れがある。

・セシウムボール→結論：特に問題は見られず

福島県北部の川でセシウムボールと呼ばれる放射性粒子が確認されたことについて報じられた。セシウムは水に溶けやすいとされていたが、2013年に粒子の形で発見され、最初に見つかった形状からセシウムボールと名付けられた経緯があった。セシウムボールについて東京大学大学院理学系研究所の高橋嘉夫教授は「予想としては微粒子は(セシウムボール)はそのまま河口を流れて海まで到達している可能性が高い。」との見解を示していた。またセシウムボールの危険性を示すデータとして東京電力職員のセシウムの被ばく線量が提示されていた。このトピックは270秒報じられ、賛否が分かれる点は見当たらなかった。

・鉄鋼アルミニウム輸入制限対象に日本も→結論：特に問題は見られず

トランプ大統領が日本も鉄鋼、アルミニウムの輸入制限対象として含まれる考えを示したことについての報道。この一連の政策について反対していた国家経済会議のコーン氏が辞任したことについても触れられた。このトピックについては 69 秒報じられていた。なお今回は対立点や論点などは見当たらなかった。

・安倍氏が二階氏と対談→結論：特に問題は見られず

3月7日夜、都内の料理店で会談したことについての報道。会談の内容として国会情勢や総裁選挙についても話題となっていたことが報じられていた。コメンテーターの星浩氏は「明日の朝いよいよ財務省の森友関係の文書のコピーが公表されるという事なんですけど、今まで国会に提出されているのと同じものが出るんじゃないかと情報が飛び交っていますね。」とのコメントをしていた。なおこのトピックについては 34 秒報じられ、賛否が分かれる点は見当たらなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし

検証者所感

・セシウムボール

今後の報道でセシウムボールという単語が独り歩きしないよう注視する必要があるように感じた。セシウムが大きな粒子に固定化されることは、恐らくではあるがメリットもあるはずであり、あくまで一つの現象として客観的な分析や報道がなされることを期待したい。

・安倍首相が二階氏と対談

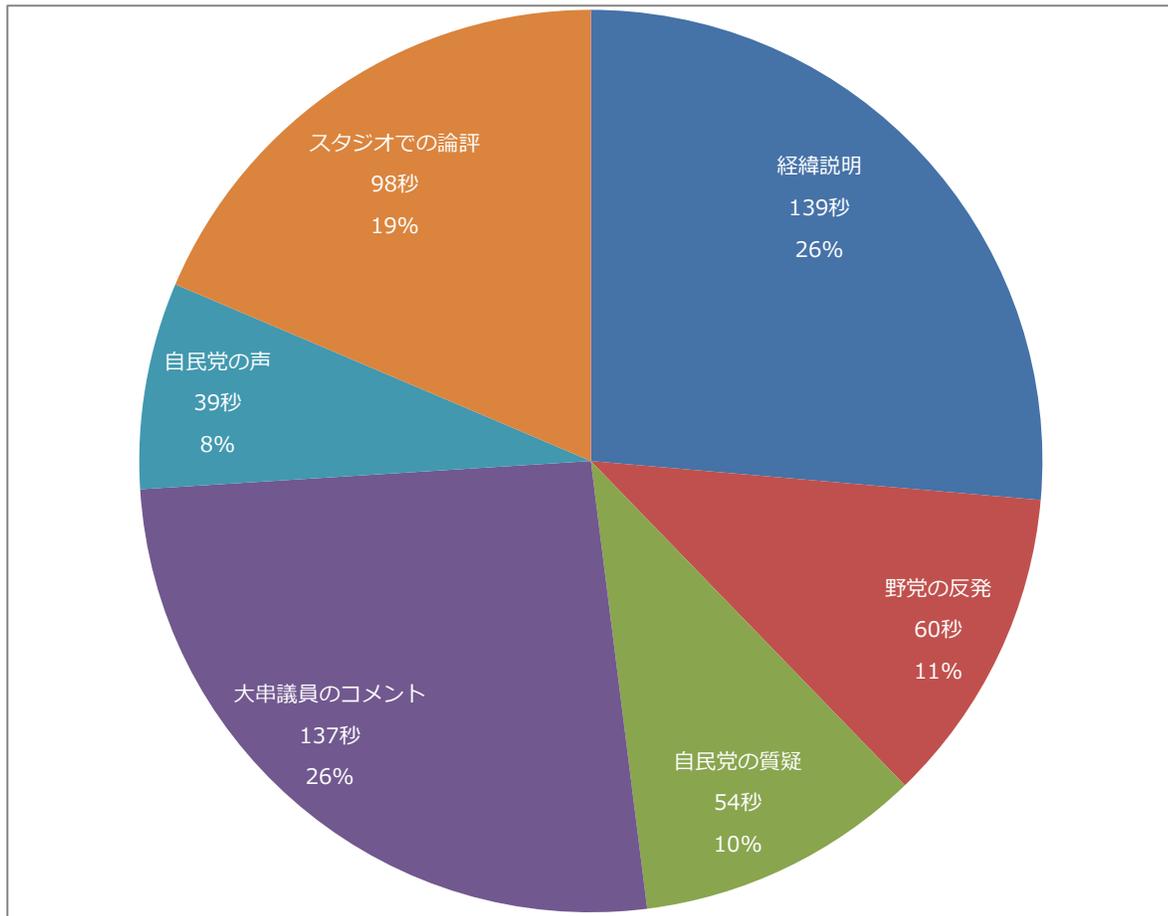
星氏が安倍首相と二階氏の対談に対してのコメントを求められているにも関わらず、森友学園文書について言及していたのに違和感があった。対談自体に対するコメントではなく森友問題ありきでコメントしているような印象を受けかねないコメントだった。

NEWS23 週刊報告月号 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年3月8日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：トランプの輸入制限、森友問題、中間貯蔵施設、南北朝鮮関係		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トランプの輸入制限 ・春の嵐 ・森友学園 ・中間貯蔵施設 ・公衆電話、小学生の85%が「使ったことない 知らない」 ・ブラック校則 ・レスリングのパワハラ問題 <p>※馳浩参議院議員が日本レスリング協会の副会長としてのコメントも紹介されていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北朝鮮関係 ・コインチェック、来週をメドに顧客保証実施へ ・スポーツ報道 ・天気予報 ・杉本昌隆七段と藤井聡太六段の対局 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トランプの輸入制限：結論→問題なし <p>アメリカのトランプ大統領は鉄鋼とアルミニウム納入制限を最終決定するための会議を日本時間の9日朝に開くことを明らかにしたことが報じられた。トランプ大統領は「ホワイトハウスでの午後三時半の会議を楽しみにしている、アメリカの鉄鋼とアルミニウム産業を守り再建しなければならない。」とTwitterに投稿した一方で、真の友人や我々を貿易と軍事面の両方で公正に扱ってくれる国に対しては多くの柔軟性と協力を示す、として一部の国を例外扱いにする可能性を示したことについても報じられた。スタジオでは星キャスターが「輸出産業に直接の影響もあるんですけども、これによって世界貿易が縮小してくるっていうことのおおりを日本は受ける可能性がありますよね。安倍総理はトランプさんとの良好な関係を誇っているわけですからこういうときこそ、こういうおろかな判断はやめなさい、と忠告するべきだと思いますね。」とコメントしていた。このトピックについて当てられた時間は113秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森友学園問題：結論→問題あり <p>森友問題を巡って財務省の文書が書き換えられた疑いがでている問題について財務省は今日、新たに決裁文書の写しを提出したことを受けての報道だった。このトピックについて当てられた時間は527秒で、経緯説明、野党の反発、自民党の質疑、元財務官僚の大串博志議員による財務省の対応についてのコメント、自民党内部の声、</p>		

放送法遵守を求める視聴者の会

スタジオでの論評と大きく6つのポイントに分けられる報道だった。それぞれのポイントについての時間配分及び比率は以下の通りであった。



経緯説明では財務省が今朝、参議院予算委員会の理事会に問題となっている2015年の貸付契約と2016年の売買契約の決済文書についてそれぞれ紙と電子データで保存されたもの併せて四種類の文書の写しを提出したこと、朝日新聞は契約当時の決裁文書には貸付契約では「特例的な内容になる」、売買契約では「価格提示を行う」という表現があったと報じているものの去年に国会議員に開示された文書ではそれがなくなっていたこと、今回提示された文書の写しではチェックマークの有無など一部違いがあるものの文言は国会議員に開示されたものと全く同じだったこと、それを受けて野党側はこれが契約したときに作成された原本の写しなのかどうかを質しましたのに対し財務省は近畿財務局に現在ある写しの全てだと説明した上で、それ以外の文書の存在については現在調査中と明言を避けたこと、この財務省の対応に、これでは書き換えはあったのかなかったのか明らかにはならないと野党側は猛反発したことが伝えられた。

野党の反発では立憲民主党の福山哲郎幹事長の「現時点ではこれが全てというわけのわからない答弁をしまして、全く昨日までと状況は変わっておりません。ゼロ回答ですし、与党の二幹二国で提出を求めた結果がこれならばゼロ回答どころかマイナス回答と言わざるを得ません。」という発言が紹介されたほか、参議院の予算委員会に野党が抗議の欠席をしたことが報じられた。また、野党が合同の決起集会を開催したこと、そこでの共産党の小池晃書記局長「この書き換えが事実であれば、まさに内閣総辞職に値する問題である。」という発言、野党の抗

議で今日の衆議院本会議は開かれなかったことも報じられた。

自民党の質疑では自民党の三木亨参議院議員による質疑での以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。
三木亨参議院議員「国会からの要精に対しては政府は誠実に対応するべきであるというふうに考えております。
総理のお考えをお聞きしたいと思います。」

安倍総理「捜査優先はそのとおりであります、できるだけ想起に説明できるよう、財務省を挙げて、最大限努力をしてもらいたいと考えています。政府としても誠意を持って対応していく考えであります。」

ナレーション「しかし、国政調査権に基づき検察が捜査資料を提出する可能性について尋ねられると
辻裕教(法務省刑事局長)「今後の操作に支障が生じる恐れがあることなどから検察当局においての対応につきましては極めて慎重に判断するものと考えております。」

ナレーション「と、慎重な姿勢を見せました。」

大串議員のコメントの部分では、大串議員について元財務官僚であると紹介された上で大串議員のコメントと、大串議員の指摘に対する財務省の回答について以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

ナレーション「今日、財務省が公開した決裁文書の写し、元財務官僚の大串議員はある不自然な点があると言います。」

大串博志(衆院議員)「紙から写したものはパンチ穴が左、左、」

ナレーション「指摘したのは紙の状態に残されていた文書の状態と電子データ版との違いです。書き換え疑惑がある調書のページに注目すると、紙の方はパンチ穴が全て左に空いています。ナレ、ところが、電子データの方は。」

大串博志「パンチ穴が左、右、左、右、となっています。」

ナレーション「その理由は。」

大串博志「両面コピーで、こうなっているはずなんです。一ページ目、パンチ穴こっち、ね。でこれがペラッとこうなって2ページ目を見れると、するとパンチ穴は同じコチラにあると。」

ナレーション「つまり元々は両面印刷だった決裁文書を電子データにしたためにパンチ穴が交互になったというわけです。大串議員は今日、開示された二種類の写しには別々の原本があるのでは、と指摘します。」

大串博志「こうみると、こっちは明らかに、こっちはこういう片面綴じのものからコピーされている。でこっちは明らかに両面綴じのものからコピーされている、ということで元々の元が違うということがわかりますね、これを持って唯一無二の決済からのコピーですよ、ということをおっしゃられても、中々すぐに信じるというのは難しい。」

ナレーション「野党の指摘に財務省は。」

財務省の担当者「あの、ご指摘のパンチ穴が違うんじゃないかというようなことありますが、ちょっと我々はそこ詳細はこれから確認しなければいけないと思っていますけれども」

ナレーション「なぜ違いがあるのかはこれから確認したいとしました。」

自民党の声では岸田文雄氏の「こうした書き換えがもしあったとしたならば、これはもう言語道断、許すことはできない、この問題であります。」というコメントがテロップでの「自民党岸田派会長」という肩書と併せて紹介されていた。また、決裁後に文書が書き換えられる可能性について、ナレーションで「警察庁出身で官僚時代に決裁文書の作成に携わって経験がある」と紹介された平沢勝栄衆議院議員の「通常はないと思いますよ、もし文書を変えるならもう一回決済を取り直さなければなりませんよ。みんな疑念を持っておられるわけですから、

これを晴らすことができるのは財務省だけなんです。」というコメントも紹介されていた。

スタジオでは VTR を承けて以下に朱記したやり取りが繰り広げられていた。

雨宮塔子「細かい問題はありますが、結局は時間をかけた割には既に開示されていたものと同じ文書だったってことですね。」

星浩「そうですね。はい、自民党執行部の人に聞いてみましたが、原本が書き換えられたかどうかですね、財務省は簡単にわかるはずだ、おそらく掌握しているんだろう、というんですね。じゃあなんで時間がかかっているのか、と。これは別な自民党の関係者に聞きますと、財務省はもしかするとですね、流出したとするとその流出した経路、どういう人からどういう経過で流れたのか、そこを調べているんじゃないか、と、言うんですね。」

駒田健吾「そしてこちらは、JNN が新たに入手した森友学園への国有地売却を巡る財務省の決裁文書です、今書き換えられたのでは、と問題になっている文書とは別のものなんですけれども、同時期に作成されたものです、この文書で注目なのがこちらです。本件の特殊性に鑑み、とありますよね。更に全部読みますと、特殊という言葉が複数箇所あります。星さんはこれどう見ますか。」

星浩「この特殊性というのはやはり今回のキーワードだと思いますね。つまり、近畿財務局で森友問題が特殊なものだというふうに理解されていたということのを伺わせるわけですね、じゃあその何が特殊なのか、契約内容なのか、それとも籠池さんの対応だったのか、さらには安倍昭恵さんが小学校の名誉校長をしていましたからね、そういう事情が特殊だとかいろんな事が考えられるんですね、これはやはり文書を作った当事者に聞いてみるしかない、ということですね。」

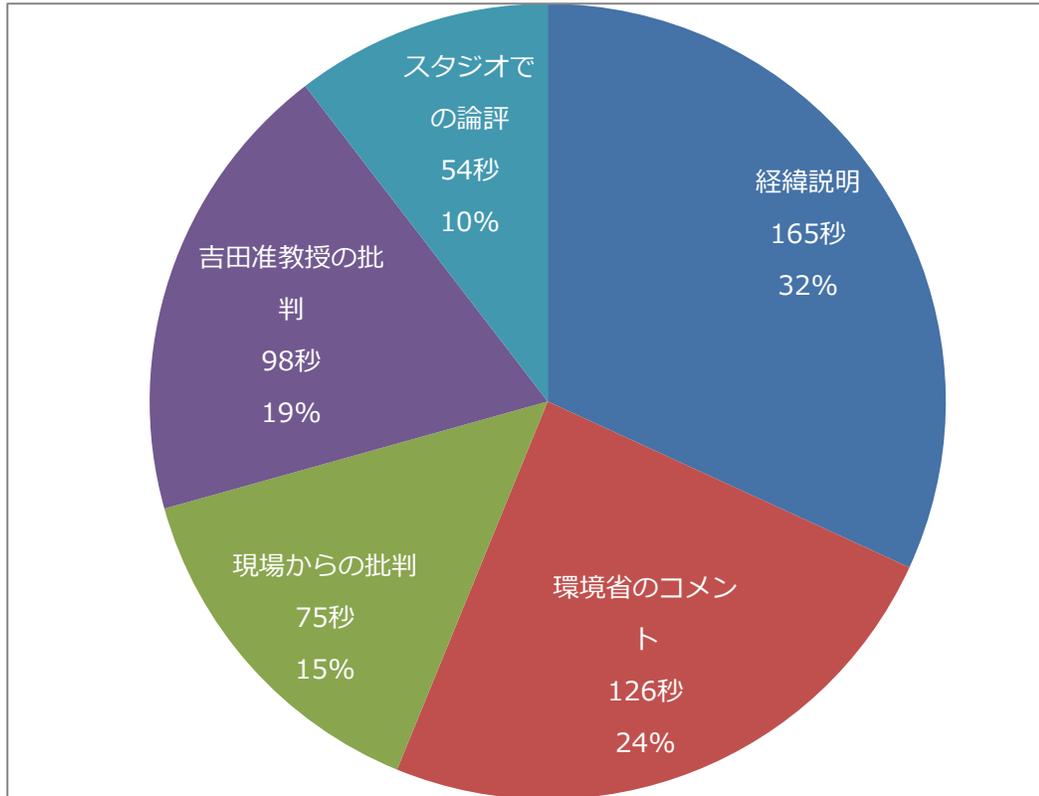
今回は、元官僚としての見解が元財務官僚では希望の党の大串議員、元警察官僚では自民党の平沢議員の見解が取り上げられていた。しかし、大串議員の指摘するパンチ穴について、平沢議員が言及するシーンはなかった。役所内の文書管理について問題視するのであれば、やはり大串議員の指摘した点については与党の元財務官僚の見解を紹介するシーンがあつてしかるべきであると思う。特に、報道の構成上、大串議員の指摘した点が財務省の決裁文書が書き換えられているのでは、という疑念を支える物となっているのだから、その点について政権に対して攻勢をかけたい野党の立場からの発言なのか、それとも与党の元財務官僚からも同じことが言えるのか、というのは極めて重要な点であると言える。そうした点について野党の議員である大串氏の指摘を鵜呑みにして、与党の元財務官僚の議員からも同じことが言えるのかという検討を怠るのは、意図的でないとすれば職業的懐疑心の欠如を物語っているものでありと考えられるし放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という見地からは望ましいとは言えないだろう。そして、仮に意図的であるとすれば極めて政治的に偏った報道の構成であり、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」に抵触していると考えられる。

JNN が新たに入手した文書については、スタジオで駒場キャスターが文書を示していたが、朝日新聞の報道については疑念を裏付けるはずの契約当時のものとされる文書自体については報道中で実物は示されていなかった。この点についても朝日新聞の報じている疑惑を裏付ける文書の実物の存在を示さないまま、朝日新聞の報じる疑惑を鵜呑みにした報道を行うというのは放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点からすると、問題のあるものと言える。

・ 中間貯蔵施設：結論→問題なし

現在、およそ 1300 袋が福島県内にあるとされている除染廃棄物が入ったフレコンバッグが、当面の措置として県内あわせて 1100 箇所の仮置場などにそれぞれ置かれていて、今後各地に置かれていたフレコンバッグを現在、整備が進められている中間貯蔵施設と呼ばれる場所に纏めて運ぶ計画について報じられた。

このトピックについて当てられた時間は 518 秒で、経緯の説明と、環境省による説明、計画に対する現場で作業をしている男性からの批判、計画に対する福島大学で都市科学を専門とする吉田樹准教授からの批判、スタジオでの論評という 5 つのポイントがあり、これらのポイントに対する時間配分及び比率は以下の通りであった。



経緯説明ではフレコンバッグについてと仮置場での作業の様子が報じられていた。

環境省のコメントでは環境省の職員が作業の様子について説明するシーンや計画通り作業を進めることができる見通しが立ったということ伝えるシーンが取り上げられていた。

現場からの批判では現場で作業する男性からの計画には交通事情や道路の修繕の必要性、作業員やダンプなどの作業資材の受け入れ体制が十分に考慮されていないという批判が取り上げられていた。

吉田准教授の批判では必要な車両やドライバーが確保できるのかという批判とともに、「2020年というのがあの、オリンピック・パラリンピックがある年ですし、そこまでに一つのあの区切りというものをつけておきたい、目標が本当にスローガンとなった瞬間に安全が失われる。早く運んでもらいたい、早く運びたい、でも一方で安全に確実にっていうところを本当にどこでバランスをとるのかっていうのはやはり一度立ち止まって議論する機会があってもいいんじゃないかなというふうに思っています」というコメントが取り上げられていた。

スタジオでの論評では以下に朱記したやり取りが繰り返されていた。

皆川玲奈「フレコンバッグの搬入が進んでいる中間貯蔵施設も最終的な置き場ではなくて政府は 30 年後には福島県外に移すと約束しているんですね。」

星浩「そうなんです、ところがね、福島の友人に言わせるとですね、今やられてるのは除染ではなくてですね、その、廃棄物を移す移染なんだと、福島県内でそのたらい回しにしているだけなんだという受け止め方なんです、ですから 30 年後に県外に移すっていうのも本当かな、とっていて、まあ信じている人あんまり多くないですね。まあ、あの最終的には福島に押し付けられるんじゃないかって感じている人、多いと思います。ただその翌々考えますとね、この原発っていうのは、その福島で作って首都圏の生活を支えてきたわけですよね、それをやはり国全体で考える必要があると思いますね。」

雨宮塔子「明日は福島県富岡町から中継でお伝えします。」

・南北朝鮮関係：結論→問題なし

韓国の大統領特使として北朝鮮を訪問した鄭国家安保室長と徐国家情報院長が南北首脳会談の開催合意など訪朝結果を説明するため間もなくワシントンに到着したことが報じられ、「アメリカと北朝鮮の対話を成功させることが最も急がれます」という鄭国家安保室長のコメントが紹介された。また、日本政府の対応については「対話に対して耐火を与えることはあってはならない、わけでありまして。」という安倍総理の答弁が紹介されると共に、安倍総理は北朝鮮に核ミサイル計画を放棄させるため、アメリカ、韓国とも連携して最大限まで圧力を高める考えに変わりがないと強調したことや、来週日本を訪れる予定の韓国の徐国家情報院長とつっこんだ意見交換をしたい、としていることが報じられた。このトピックについて当てられた時間は 64 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・トランプの輸入制限

星キャスターの「輸出産業に直接の影響もあるんですけども、これによって世界貿易が縮小してくるっていうことのおおりを日本は受ける可能性がありますよね。安倍総理はトランプさんとの良好な関係を誇っているわけですからこういうときこそ、こういうおろかな判断はやめなさい、と忠告するべきだと思いますね。」というコメントであるが、日本があおりを受けることと、アメリカの利害は一致しないのだから、アメリカの利害に基づいて打ち出された方針に対して頭ごなしに「愚かな判断」というのはやや傲慢ではないかと感じた。

・森友学園問題

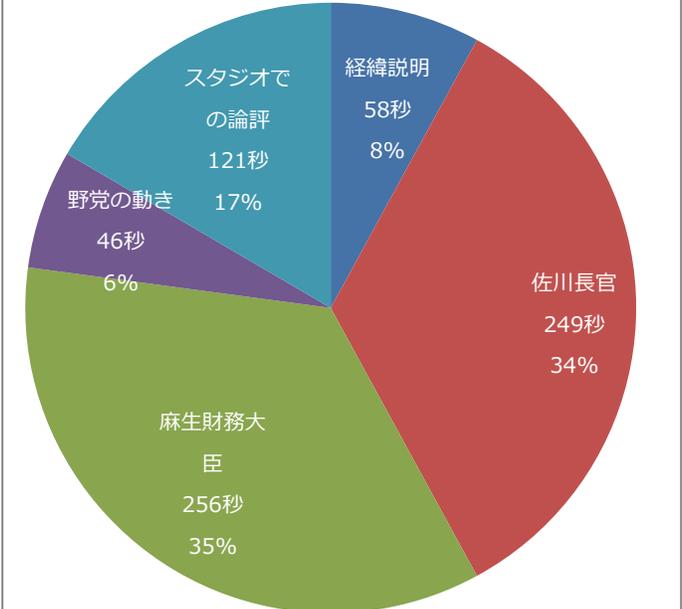
福山哲郎参議院議員が「立憲民主党幹事長」、小池晃参議院議員が「共産党書記局長」とそれぞれテロップで肩書を紹介されていたのに対し、自民党からの声として出ている岸田文雄氏の発言のシーンでテロップでの肩書紹介が「自民党、政調会長」ではなく「自民党、岸田派会長」だったのが非常に印象的だった。むしろ、報道機関が政局を煽っているのでは、とすら感じた。

また、共産党の小池晃書記局長の「この書き換えが事実であれば、まさに内閣総辞職に値する問題である。」という発言であるが、この文書自体が近畿財務局の管財部次長の決裁であることから、これで内閣総辞職に値

NEWS23 週刊報告月号 詳細版

するということになれば、官庁は意に沿わない政権を地方の出先機関の一部局の次長レベルで飛ばすことができるようになる、戦前の軍部大臣現役武官制により陸軍あるいは海軍の意向に従わない内閣が葬られるような状況を彷彿とさせる非常に危険な政治状況を招きかねない戦前回帰的な考え方だと感じた。

NEWS23 週刊報告月号 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年3月9日																		
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾 ※皆川玲奈キャスターは富岡町から中継 平井久志(北朝鮮問題に詳しいジャーナリスト)																				
検証テーマ：森友学園問題。北朝鮮問題																				
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・森友学園問題 ・北朝鮮問題 ・福島県富岡町、帰還困難区域の目の前、被災地カフェ ・【速報】貴乃花親方が内閣府に告発状 ・鹿児島と宮崎の県境、新燃岳が2日ぶりに爆発的噴火 ・パラリンピック開幕 ・日本相撲協会が大砂嵐に引退勧告処分 ・スポーツ報道 ・天気予報 																				
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・森友学園問題 <p>森友学園問題に関連して佐川国税庁長官が辞任したと近畿財務局管財部で森友学園問題を扱っていた部署の職員が自殺したことが報じられた。このトピックについて当てられた時間は730秒で、経緯説明、佐川長官の会見、麻生財務大臣の会見、野党の動き、スタジオでの論評の大きく5つのポイントがあり、それぞれのポイントの時間配分は以下の通りであった。</p> 																				
 <table border="1"> <caption>報道内容の時間配分</caption> <thead> <tr> <th>トピック</th> <th>時間 (秒)</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>佐川長官</td> <td>249</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td>麻生財務大臣</td> <td>256</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>スタジオでの論評</td> <td>121</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>野党の動き</td> <td>46</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>経緯説明</td> <td>58</td> <td>8%</td> </tr> </tbody> </table>			トピック	時間 (秒)	割合 (%)	佐川長官	249	34%	麻生財務大臣	256	35%	スタジオでの論評	121	17%	野党の動き	46	6%	経緯説明	58	8%
トピック	時間 (秒)	割合 (%)																		
佐川長官	249	34%																		
麻生財務大臣	256	35%																		
スタジオでの論評	121	17%																		
野党の動き	46	6%																		
経緯説明	58	8%																		
経緯説明では森友学園問題での佐川理財局長当時の答弁や、近畿財務局と籠池氏のやり取りについて改めて取																				

り上げられていた。

佐川長官については佐川長官が国税庁長官の辞表を提出したこと、辞任を承けての記者会見での以下に朱記した様子が取り上げられていた。

ナレ「森友側と価格交渉はしていない、文書は廃棄した、と繰り返しました。今年になって野党側はこれまで佐川氏がないとしてきた内部文書や森友側と価格交渉していたことが相次いで明らかになったと指摘、佐川氏が虚偽答弁をしたと追求を強めてきました。国会で虚偽答弁をしたのでは、と問われた佐川氏は
佐川「あの、そういうご指摘が国会であるというのは承知しておりますけれども、そこも踏まえた上で現在の理財局長が答弁しておりますので、その太田局長の答弁に尽きる、というふうに思っております。」

ナレ「更に、事前の価格交渉の有無についても。」

佐川「まあ、個別の国有財産行政に関わりますので私の方からコメントは差し控えたいと思いますが。」

ナレ「決裁文書の書き換えを指示したのか、と問われても。」

佐川「大阪地検の操作を受けていることをございますので、私の方からそういう点についてはコメントは一切差し控えさせていただきます、というふうに思います。」

記者「ご自身としては付度はあった？」

佐川「付度、ってのは、すいません、どういう意味でございますでしょうか？」

記者「政治に対するですね、政治に対するご配慮と言うか。」

佐川「あの、国会での答弁はですね、皆様のこの委員会からご質問を頂いてですね、その質問に誠実にお答えしたというふうに思っております。」

ナレ「今朝、辞任を決めたという佐川氏、20分余の会見中、想定問答が書かれた紙をずっと握りしめていました。」

ナレ「近畿財務局の職員の自殺が辞任のきっかけになったのか聞かれると。」

佐川「今日のニュースで知りました。そういう意味では本当に残念なことだと思いますし、本当に心からご冥福をお祈りしたいというふうに思います。」

記者「それがきっかけになったということではない。」

佐川「ちょっと私は本当にその件について初めてニュースで知りましたので、その件についてはこれ以上のことは存じません。」

ナレ「メディアの追求にも理財局長時代を彷彿させる手堅い答えを繰り返す佐川氏、表情が緩んだように見えたのはこんな質問をされたときでした。」

記者「これから先、どのように人生を歩まれる。」

佐川「何も考えてございません。」

記者「来週から何をしようと。」

佐川「いや、もう本当に今日、辞任することを決めてお認めいただいておりますので、本当にいま何も考えていません。」

記者「悔いの残るようなことがあればお伝え下さい。」

佐川「あの、その時その時はまあ一生懸命やらせていただいていたわけでございますけど、今になって思うとやはり国会でもずいぶん私の答弁に関しましてご議論を頂いて、ずいぶんお時間を使ったわけでございますけど、そういう意味では文書管理、二番目の文書管理につきましても、かなり国会でのご批判をいただきましたのでそ

ういう意味ではやっぱり反省すべき点があったんだなというふうに思っております。」

記者「政権の犠牲になったんじゃないか、みたいなことを。」

佐川「先程申し上げた3つの理由であの辞職を申し出て、お認めいただいたということにつきております。本当に申し訳ありませんでした。」

ナレーション「最後まで多くを語ることはありませんでした。」

麻生財務大臣についても定例閣議直後と佐川長官の辞任を承けての2つの記者会見、午後一時前に近畿財務局の森友担当職員の自殺が報じられての麻生大臣へ記者が質問する様子が取り上げられていた。定例閣議直後の記者会見では以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

朝日新聞記者「書き換えがあったのかなかったのか、それが最大の関心事だと思うんですが、先にそういったことを発表される予定っていうのはないのでしょうか。」

麻生財務大臣「ありません。捜査に影響を与える、与えないっていう話、のが私の基準ですから。」

朝日新聞記者「じゃあ、影響を与えないならそういう可能性もある。」

麻生財務大臣「影響を与えない、というのであればね。その質問、もう5、6回してない？あなた。」

また、佐川長官の辞任を承けての記者会見では以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

ナレ「佐川氏辞任を受けて麻生大臣が会見を開きました。」

麻生大臣「本人が辞めるということをいわれて、私どもとしては彼の責任感を感じているということを理解していますけれども、じゃあ、彼が不適任であったかと言えば私どもとして少なくとも国税庁長官として不適任であったという意識は私にはありません。」

ナレ「更に、辞任の感想を問われると。」

麻生大臣「私自身は、正直残念であったと思っております。正直申し上げて、極めて有能だし真面目だと思っておりますし。」

ナレ「一方で今回、麻生大臣は行政への信頼を損なったとして、佐川氏への懲戒処分も発表しています。矛盾があるのでは、と、記者が問い詰めると。」

麻生「佐川一人の責任にするのはいかなものだと思わないでもありませんけどね、少なくとも佐川自身はその責任は自分で取りたいということを申しておりますので、その点を私どもとしては考慮させていただいた、ということだと思います。」

ナレ「会見では辞任のタイミングについても質問が飛びました。」

記者「やはり自殺者が出てようやく辞任になったかというようにも見えますが、その点はですね、大臣として、一人の自殺者が出たということをどういうふう to 受け止めて。」

麻生「大変、残念に思いますし、誠に悲しい話だと思っております、で今の話と直接佐川の、それが直接つながったかかというように報道したいというお気持ちなんだろうけれども、それは私のところでは分かりません。」

ナレ「麻生大臣自身の責任についてはどう考えているのでしょうか。」

記者「当時大臣だった麻生さんの、麻生大臣ご自身の責任はどうお考えですか。」

麻生大臣「理財局長として適任な人を信任したと思っております。」

記者「大臣の進退についてはどのようにお考えでしょうか。」

麻生大臣「私自身の進退？ 私自身の進退については今特に考えているわけではありません。」

ナレ「自らの辞任は明確に否定しました。」

記者「任命を含めた責任というのをお感じになっていないのかと、言うふうには先程のずっとやり取りを聞いていて思うのですが。」

麻生「私自身が責任を感じていないようにあなたが感じている。」

記者「そうそうそう、ご自身が今回…。」

麻生「それは不徳の致すところではですね、私の。」

ナレ「こう述べた麻生大臣。ナレ、一方文書の書き換えがあったのかについては調査結果を来週早々にも示せるようにしたい、としました。」

野党の動きでは、野党による財務省へのヒアリングで民進党の杉尾秀哉参院議員が「自殺したという報告はいつございましたか」と質問すると、財務省担当者が「今回の事柄については私自身、すごく重くまず受け止めております、でその上で、職員個人のこととございまして、私からコメントすることは差し控えさせていただきたいと思います。」と答え、これに対して、さらに杉尾議員が「遺書を残していच्छるらしいですけども、その情報は把握されていますか。」と質問すると財務省担当者が「今申し上げましたように、私からコメントは差し控えさせていただきます。」と答えたシーンが取り上げられていた。

スタジオでの論評ではスタジオに官邸キャップの遊佐勝美記者との中継をつなげての以下に朱記したやり取りが繰り広げられていた。

駒田健吾「今回の佐川氏の辞任撃が安倍政権の運営に同影響するのか、官邸キャップの遊佐さんに聞きます。遊佐さん。」

遊佐勝美(官邸キャップ)「はい、一番のポイントは安倍総理の盟友、麻生財務大臣を守り切ることができるのかどうか、という点だと思います。佐川氏の国税庁長官への起用を適材適所と国会で答弁してきた安倍総理と麻生大臣ですが、野党側は早速、佐川氏の上司である麻生財務大臣の任命責任を追及し始めました。しかし、麻生大臣は第二次安倍政権の発足当初から政権を支えてきた屋台骨であることから安倍総理としても守り抜くか前です。ただ、決裁文書の書き換え疑惑が仮に事実だったとしますと、野党だけではなく与党内からも麻生大臣の責任を問う声が出ることも予想されます、今後の展開次第では安倍総理と麻生大臣を中核とした安定政権が揺らぐような事態も怒るかもしれません。」

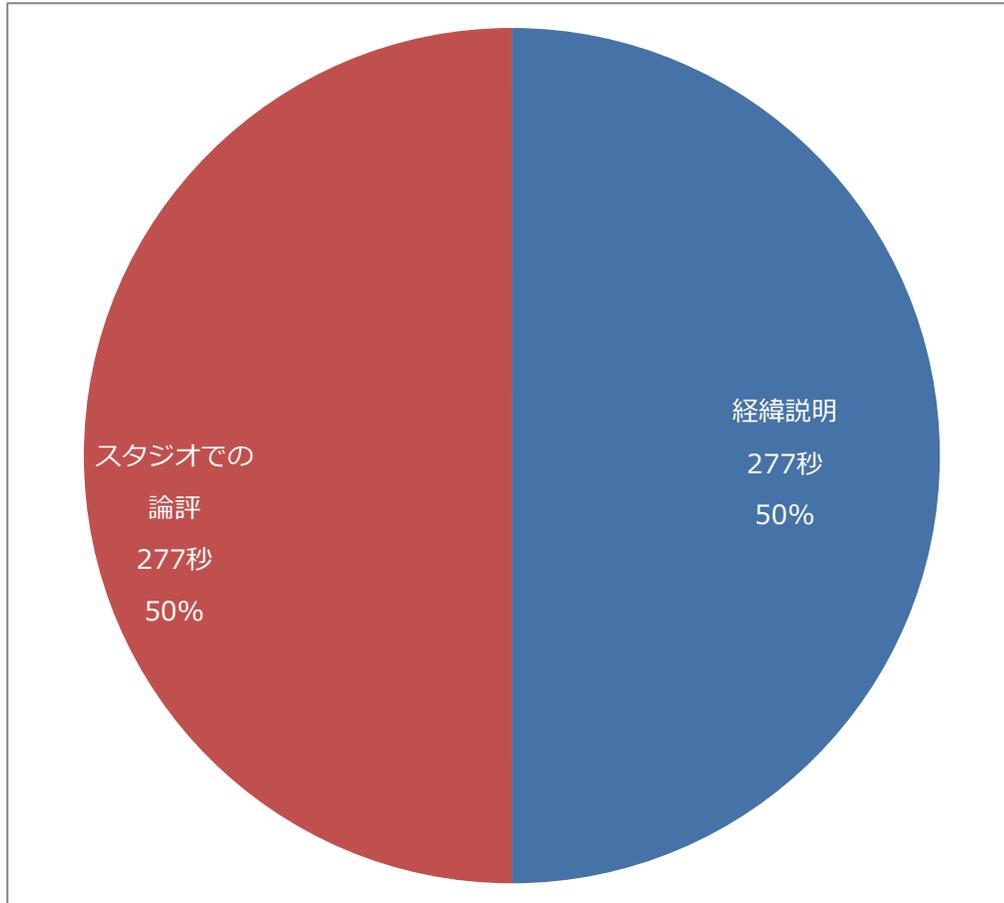
雨宮塔子「麻生さんは今後どうなるのでしょうか。」

星浩「ええ、私の取材ではですね、その佐川さんはどうも早くから辞めたい辞めたいと言っていたんですね、それを麻生さんが慰留していた、と。そこでその森友問題の文書書き換え疑惑が浮上してですね、その自民党の中では麻生さんの辞任は避けられないんじゃないか、って声が出てきたわけですね。その中で自民党幹部の一人によればですね、麻生さんはこの局面で佐川さんを辞任させて自分は逃げ切ろうとしている、というコメントをしている人もいますね。しかし、この状況ではですね、どうも佐川切りだけでは済まない雲行きになってきた、というのが現状だと思いますね。」

今回の報道は佐川国税庁長官の辞任や近畿財務局の管財部職員の自殺を承けての会見がメインで、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・北朝鮮問題

北朝鮮の金正恩党委員長が韓国を通じて、アメリカのトランプ大統領に米朝首脳会談を提案し、トランプ大統領は5月までにと、すぐに提案を受ける移行を示したことについて報じられた。このトピックについて当てられた時間は554秒で、このトピックは経緯の説明と、スタジオでの論評という大きく2つのポイントに大別され、それぞれのポイントの時間配分および比率は以下の通りであった。



経緯の説明では米朝会談に至るまでには韓国の仲介があったことや、米朝の激しい非難の応酬があったことが伝えられ、また、トランプ大統領と電話会談を行った安倍総理の「4月中にも訪米し、日米首脳会談を行いたい、今後もトランプ大統領と連携を取りながら一層緊密に協力をしながら、取り組んでいきたいと思います。」というコメントも紹介された。

スタジオでの論評では、ワシントン支局の緒方記者との中継や、北朝鮮問題に詳しいジャーナリストの平井久志氏を交えての、以下に朱記したやり取りが繰り広げられていた。

雨宮塔子「米朝会談の電撃合意から一夜明けたアメリカではどう受け止められているのでしょうか、ワシントン支局の緒方さん。」

緒方誠「はい、アメリカ有力紙はいずれも一面でこのニュースを伝え、トランプ大統領の外交の勝利と評価する一方で北朝鮮の非核化につながるのかという点では慎重な論調が目立っています。ワシントンポストは現時点では少なくとも最大の外交政策の勝利とし、ウォール・ストリート・ジャーナルも歴史的外交的なせいかと報じています。しかし、同時にかつて北朝鮮問題に関わった元政府高官や専門家の非核化につながるのかは懐疑的、遠い幻想、と言った否定的な意見を併せて掲載しています。実務者レベルの接触を積み上げないままトップ会談に

望むことや会談までおよそ二ヶ月しかないのに、駐韓国大使や北朝鮮担当特別代表が空席で、十分な体制ができていないことを不安視しています。アメリカではトランプ流のトップ外交がリスクとチャンス両方を抱えた危険な賭けだという、そういう冷静な受け止めが大勢となっています。」

雨宮塔子「はい、ジャーナリストの平井久志さんにお越しいただきました、この急展開、まずは水面下で何が起きていたのか、とても気になるのですが、平井さんはこのいっぽうどう受け止めましたか。」

平井久志「いやあ、驚きました、あの、まあ金正恩さんが会談をしたいというのは韓国の特使の方がまだアメリカに伝えていない北朝鮮の立場がありましたので、ある程度の予測はできましたけれども、トランプさんが何の事前の協議もなくこれを受け入れるということはちょっと予測できなかった、トランプさんが受け入れたということに対して非常に驚きました。まあこれはトランプさんと金正恩さんという独特なキャラクターが生み出した産物でしょうね。」

雨宮塔子「星さんはこのトランプ大統領を動かしたのはなんだったと。」

星浩「米朝はですね、最近ドイツとか国連で接触もしてまして、トランプさんなりにですね非核化についてはちょっと確信を持ったのかな、ということが一つですね。もう一つはやっぱりトランプさんなにせ今年の秋の中間選挙に絶対勝たなきゃいけないので、外交的な成果をここならもしかして挙げられるんじゃないかな、と一つ賭けに出たっていう面もあると思いますね。」

駒田健吾「平井さん、北朝鮮への経済制裁というのは効果はあったということなんでしょうか。」

平井久志「あの、まだそれほど十分な効果は出ていない、とは思いますが、今後間違いなく北朝鮮に深刻な影響を与えたいと思いますね。北朝鮮としては非常にそういう切羽詰まった状況になって交渉に入るよりはそう入る前に交渉に行きたいということだと思います。それともう一つは韓国の努力ですね。この仲介外交の成果だと主ますよね。ともすれば我々はまあ、慰安婦問題なんかがあるんで韓国の外交努力っていうのはちょっと低く見がちなんですけれども、今回はその仲介外交が大きな成果を生んだってことではないでしょうか。」

雨宮塔子「続いては今後の展開ですが、星さん、日本にも関係がある米朝の交渉ですが内容はどのように。」

星浩「そうですね、まず非核化の方はそれなりに進んでいくんだと、まあ検証はいろいろと難しいところあるんですがね。問題なのはミサイルの問題でミサイルの射程距離っていうのがありましてね、ミサイルの射程が例えばその北朝鮮は制限します、3000キロに制限します、となるとですね、アメリカには勿論届かない、ハワイ、グアムにも届かないんですけれども、日本全体がすっぽり入るわけですね、これによって日本とアメリカの利害関係が対立する、日本とアメリカがもしかしたら分断される可能性があるというのができてまして、この辺をまあ、勿論北朝鮮も使いますから、日本側はそこに対して非常に注意が必要だということで、まあ安倍総理が4月に訪米する時そのへんできちんとトランプさんに釘をさせるかどうか一つポイントになると思いますね。」

駒田健吾「そして平井さん、今後という点なんですけれども、米朝首脳会談は5月までにという言葉がありました。どう動いていくのか見通しはどうでしょうか。」

平井久志「そうですね、あの、まあ非核化ということが言われてますけれども、具体的には根拠がまだないわけですよ、そういう意味ではガラス細工みたいな合意なのでもしこれが失敗した場合には逆にこれが軍事的緊張にもう一度戻るっていうようなそういう恐れもあると思うんですね、それとまあ我々は注意しないといけないのは韓国の特使の方も仰っていますけれども、過去の失敗を繰り返さないために、ということをやっているわけでそういう意味ではあまり情報の急進展に目を奪われることなく長期的な交渉のようやう一歩が始まったと、そう

いう認識、着実な目で少し取り扱わなければいけないし、我々もそういう視点で見なきゃいけないんじゃないのかなと思います。」

駒田健吾「落ち着いて、見ていくべきだということですね。平井久志さんにお話を伺いました、ありがとうございました。」

このトピックについては放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・森友学園問題

スタジオで星キャスターが「私の取材ではですね、その佐川さんはどうも早くから辞めたい辞めたいと言っていたんですね」とコメントしていたが、この番組について検証を続けてきたが、これは初耳であるし、佐川氏にそうした意向があったことを伝える報道というのに接した記憶もない。仮に星キャスターが独自の取材でそうした情報を得ていたのであれば、なぜそれを辞任した今になって言うのか、佐川氏の国税庁長官人事の妥当性が問題とされていたときに言わなかったのか、非常に疑問である。